



高気圧と低気圧はどうちがうの

気圧は上空にある空気の重さ

地球をとりまわっている大気は、地球の重力に引かれて、地球の表面を四方八方からおしています。この大気の圧力を気圧といいます。つまり、気圧とは、上空にある空気の重さを合計したものです。気圧はヘクトパスカルという単位で表し、1気圧は1013ヘクトパスカルです。

高気圧と低気圧のちがい

高気圧とは、まわりよりも気圧の高いところをいいます。また、低気圧とは高気圧とは反対にまわりよりも気圧の低いところをいいます。低気圧よりも気圧の低い、高気圧もあります。ですから、何ヘクトパスカル以上が高気圧で、何ヘクトパスカル以下が低気圧、ということではありません。

高気圧は気圧が中心部で最も高く、周囲に向かって低くなっています。中心近くは全般に風が弱く、外側ほど強くなっています。ふつう、気圧が高いところから低いところへ、空気が流れこみます。そのため、高気圧では、外側へ向かって空気が流れ出し、中心部分に上空から空気がおりてきます。おりてきた空気は、地表に近づくにつれて暖められ、水蒸気をたくさんふくむことができます。そのため、雲が水蒸気になって消え、天気がよくなります。

低気圧は気圧が中心部で最も低く、周囲に向かって高くなっています。低気圧では中心に向かって空気がふきこみ、激しい上昇気流ができます。これが上空にのぼっていき、たくさんの雲を発生させ、強い雨を降させます。（監修・村山 貢司）

